

# 安芸の郷通信

Vol. 18

2005年1月25日発行  
 社会福祉法人安芸の郷  
 〒736-0083 安芸区矢野東2-4-24  
 森の工房AMA 森の工房みみずく  
 森の工房あやめ  
 Tel 082-888-8822 Fax 082-888-1551  
 E-mail: ama@akinosato.or.jp



年末からノロウイルスの報道が多く見られています。又、ノロウイルスの陰に隠れていますが、インフルエンザも広がり始めています。そこで、まとめてみましたので参考にしてください。  
 ノロウイルスはどうやって感染するのですか？

このウイルスの感染経路はほとんどが経口感染で、次のような感染様式があると考えられています。

- 1 汚染されていた貝類を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合
- 2 食品取扱者(食品の製造等に従事する者、飲食店における調理従事者、家庭で調理を行う者などが含まれます。)が感染しており、その者を介して汚染した食品を食べる場合
- 3 患者のふん便や吐ぶつから二次感染した場合

また、家庭や共同生活施設などヒト同士の接触する機会が多いところでヒトからヒトへ直接感染するケースもあるといわれています。

ノロウイルスによる食中毒は、日本でのどのくらい発生していますか？

厚生労働省では平成9年からノロウイルスによる食中毒については、小型球形ウイルス食中毒として集計してきました。

平成14年の食中毒発生状況によると、小型球形ウイルスによる食中毒は、事件数では、総事件数1850件のうち268件(14.5%)、患者数では総患者数27,679名のうち7,961名(28.8%)となっています。

病因物質別にみると、サルモネラ属菌(465件)、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ(447件)に次いで発生件数が多く、患者数では第1位となっています。

過去5年間の発生状況は次のとおりで

平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年
123	116	245	269	268
5,213	5,217	8,080	7,358	7,961

なお、最近の学会等の動向を踏まえ、平成15年8月29日に食品衛生法施行規則を改正し、今後はノロウイルス食中毒として統一し、集計することとしたところ

です。  
 大寒を過ぎましたが、まだまだ寒い日が続きます。体力が落ちると風邪等をひきやすくなりますので十分な睡眠・正しい食生活・手洗い等が大切です。

## 小耳情報 豆まき編 豆まきについて

豆まきでは年男(その年のえとの生まれの人)あるいは一家の主人が「福は内、鬼は外」と言いながら煎った大豆をまき、自分の年の数だけ豆を食べることから1年病気になると言われていました。もともと宮中の行事が一般家庭に普及したものとされています。「AMA」の2月給食でも節分の豆が出る予定なので、楽しみにしてください。

インフルエンザウイルスの遺伝子が変化しやすく、92%くらい遺伝子が変化してしまうと、以前にかかったときの免疫が効かなくなってしまうからです。予防接種を受ける事によってインフルエンザにかからなくするか、症状を軽減することができます。

最近では、成人の場合、1回接種だと予防効果が64%、2回接種だと94%とされています。2回接種した方が予防効果は高まりますが、逆に言うと2回接種しても6%の人はインフルエンザに罹ってしまうということです。

成人の場合、今までに何度かインフルエンザにかかっているもので、多少の免疫力を持っています。そのため、今年のウイルスの予防接種を1回やって免疫力を補強すれば、64%は予防できるということです。しかし、流行するインフルエンザウイルスは年ごとに

に変化するので、2回接種の方が確実と言えます。12歳以下の子供は、インフルエンザに対する免疫力が少ない可能性が高く、2回受ける必要があります。また、受験生とか、どうしても仕事を休めない職業の人とか、喘息など気管支に持病のある人なども、やはり2回接種の方が間違いがありません。

65歳以上の方も予防接種は2回受けられた方がよいでしょう。肺炎などの合併症が起こって重症化するのを防ぐという意味で、最も予防接種を受ける必要性が高いのが、この年齢層です。

時にこのような質問をしてこられる患者がいます、「予防接種を1回しか受けないのなら、受けないのと同じで意味がないですか?」。上に書いたように、そんなことはありません。2回受けるのはより強い抵抗力を付けるためです。1回接種でも抵抗力はある程度付きます。受けない場合と比べれば、たとえ1回でも受けておいた方がよいでしょう。成人の場合、1回接種の予防効果は64%ですが、インフルエンザに罹患したときの死亡予防効果は1回接種でも80%であると言われています。

インフルエンザのワクチンは、卵の卵白や卵黄そのものを使って製造されるわけではありません。卵が発育すると鶏の赤ちゃんのもとになる胚と、羊膜腔と尿膜腔という袋ができます。この尿膜腔というところに流行が予測されるインフルエンザの株を接種培養、増殖させます。そこから得られる漿尿液から精製・濃縮したウイルスをエーテルで処理し、副作用の原因と考えられる脂質成分を除去、更にホルマリンで動き(病原性をなくすこと)を止めるのがインフルエンザワクチンです。

昔は精製技術が進歩していなかったために卵特有の成分が残存し、これによる卵アレルギーの副作用がごくまれに起こりました。近年は高純度に精製されているのでほとんど問題となりませんが、重篤な卵アレルギーがある場合、例えば鶏卵を食べるとショックを起こした人などは、接種を避けるか、注意して接種するワクチンに安定剤として含まれていたゼラチンに対するアレルギー反応(アナフィラキシーショック)が報告されていましたが、現在、インフルエンザワクチンを生産している4社からの製品にはいづれも、ゼラチンはふくまれていません。

予防接種は、なぜ毎年しなければならないのでしょうか？

予防接種は、2回受けなければいけないのでしょうか？

予防接種を1回しか受けないのは、意味がないのでしょうか？

卵アレルギーのある人にインフルエンザの予防接種はできるのでしょうか？

「森の工房あやめ」では仕事初めに、出席者全員で書初めを行いました。ほとんどの方が、久しぶりに筆を持つということでしたがなかなか皆さん力作ぞろい。新年の抱負を書いた人や、流行の言葉を書く人など、皆さん思い思いの言葉を書かれました。「上手に書けたね。」「記念に家の人に見てもらおう。」「中には書初めの意味を聞かれ照れ笑いする人もいて、和やかな仕事始めの日となりました。」



書初めをしました

「森の工房みみずく」ではクラブ活動の日に絵画クラブで行いました。職員よりお手本を書いてもらったり、手を添えて書きました。何枚か書き、その中で一番よかった作品を飾りまちなみに「書初め」とは、新年を迎えて初めてする習字で、普通正月二日に行うそうです。

今回の給食メニューでは、ご家庭でもなじみのある「やきそば」です。豚肉・きゃべつ・そばを目の前で調理。利用者からは「家でも作るよ。」「もう食べてもいいかね。」「おいしそう!!」等等。また、手伝っていただいた、ボランティアの「みのり会」さんたちは「やけどしないでよ。」「もうちょっと待ってね。」「いつもより会話も弾みながらの一段と賑やかな給食となりました。」



できあがったやきそばを食べながら、「つぎは何かね?」と早速次回の卓上料理を皆さん楽しみにしておられました。

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
		クラブ活動		ふれ愛プラザ		
7	8	9	10	11	12	13
クラブ活動		自治会				
		自治会				
14	15	16	17	18	19	20
			職員会議			
21	22	23	24	25	26	28
家族会		クラブ活動				畑賀福祉まつり
28						
クラブ活動						みみずくあやめ両施設

みみずくから  
 安芸区在住の方の軒先のひとコマです。ご近所の方に声を掛けて頂き缶回収をして頂いております。



みみずくの授産活動は地域の方々の協力が必要ですが、リサイクル班の活動は特に協力が必要となります。団体・個人の協力に感謝いたします。



みみずく家族会より  
 次回家族会は2月21日(月)10:00からを予定しています。多数の参加お待ちしております。



2月のバザー予定  
 2月4日(金) ふれ愛プラザ  
 2月27日(日) 畑賀福祉まつり



給食委員会より  
 2月はちゃんこ鍋を作ってみる予定です。楽しみにしててください。試してほしいレシピ等がありましたらお知らせ下さい。

寄せられた善意  
 安芸区中野 匿名希望様

編集委員より  
 最後まで読んで頂きありがとうございます。ご意見・ご感想がありましたら、お気軽にご連絡下さい。